

「治る認知症を」存知ですか？」

「水頭症とその治療について」

手術で「治る認知症」
特発性正常圧水頭症
(iNPH)を知る

「年だから仕方ない」とあきらめていた歩みにくさ、もの忘れ、失禁。それらは、手術で改善する可能性のある「特発性正常圧水頭症(iNPH)」かもしれません。

Q1 水頭症とはどのような病気ですか？

脳を保護し、栄養を運ぶ「脳脊髄液」が脳内に過剰に溜まり、脳を圧迫してしまう病気です。脳は、豆腐パックの中の豆腐のように水(脳脊髄液)に浮いて守られていますが、この水の循環が悪くなり増えすぎると、脳の大事な機能を圧迫し、さまざまな症状を引き起こします。特に、原因が特定でき

ず高齢者に発症するものを「特発性正常圧水頭症(iNPH)」と呼びます。

Q2 どのような症状サインに気をつければよいですか？

特徴的な「3つのサイン」があります。特に「歩き方の変化」が最初の手がかりになることが多いです。

- ① 歩行障害(最も多い)・・・小股でよちよち歩く、足が上がらない(すり足)、足を開いて不安定に歩く、方向転換がスムーズにできないといった症状です。
- ② 認知症状・・・もの忘れに加え、意欲や集中力の低下、作業速度が遅くなるといった特徴があります。
- ③ 排尿障害・・・尿意を我慢できない(尿意切迫)、トイレの回数が多い(頻尿)、間に合わず漏らして

しまつ(尿失禁)などです。

Q3 「普通の認知症」との違いは何ですか？

症状の現れ方が異なります。アルツハイマー型認知症は「もの忘れ(記憶障害)」から始まることが多いのに対し、水頭症は「歩きにくさ」から始まる傾向があります。したがって、「最近歩き方がおかしいな?」と感ずることが、早期発見の第一歩となります。

Q4 なぜ見逃されやすいのでしょうか？

加齢のせいになれやすいためです。歩行障害は「筋力低下や膝の痛み」、認知症は「年相応のもの忘れ」と誤解され、放置されるケースが少なくありません。実際、

国内には38万人から80万人以上の患者がいると推定されていますが、適切に受診できている人はその数パーセントから10パーセント未満に過ぎません。

Q5 どのような検査で診断しますか？

主に画像検査と「タッピングテスト」を行います。

- ・CT・MRI検査・・・脳室(脳の中の隙間)が広がっていないかを確認します。
- ・タッピングテスト(髄液排除試験)・・・腰から針を刺し、脳脊髄液を少量(約30cc)抜いてみる検査です。これにより数日間にあたって歩行や認知機能が改善するかを確認し、手術の効果を予測します。

Q6 どのような治療を行うのですか？

「髄液シャント術」という手術が一般的です。脳内に溜まった余分な水を、細い管(シャント)を通して腹腔(お腹)などへ流し、吸収させる仕組みを作ります。この

Q7 どのように相談すればよいのですか？

手術により、脳への圧迫が取り除かれ、症状の改善が期待できます。手術により、少し前からの歩行障害とも忘れが、手術後に画像・臨床症状ともに大きく改善した患者さんもたくさんいます。

脳神経外科や、水頭症外来・もの忘れ外来などの専門外来に相談してください。岐阜市民病院では2025年10月に「水頭症外来」を開設し、地域のクリニックや他診療科と連携して、早期発見・早期治療に取り組んでいます。

結びに

特発性正常圧水頭症(iNPH)は、「早期発見、早期治療」により改善の可能性が高い疾患です。本人や家族が「歩きにくさ」「意欲の低下」に気づいたら、「年のせい」とあきらめず、まずは専門医を受診することが、健康な生活を取り戻す鍵となります。

今月の先生

岐阜市民病院 脳神経外科

玉川 紀之

○役職

脳神経外科長
脳神経外科部長
救急診療部長
脳卒中センター長
研修センター副センター長
栄養部副部長
脳卒中センター脳卒中相談室長

○主な資格、認定

日本脳神経外科学会専門医・指導医
日本脳卒中学会専門医・指導医
日本脳神経血管内治療学会専門医・指導医
日本脳卒中の外科学会技術指導医

○卒業年、主な職歴

平成8年卒



定期開催の「岐阜市民病院公開講座」の講演動画は、岐阜市公式YouTubeチャンネルで公開中！
玉川 紀之 医師他による「水頭症・認知症」に関する動画を只今公開しています。詳しくは、岐阜市民病院ホームページをご確認ください。



岐阜市民病院
ホームページ